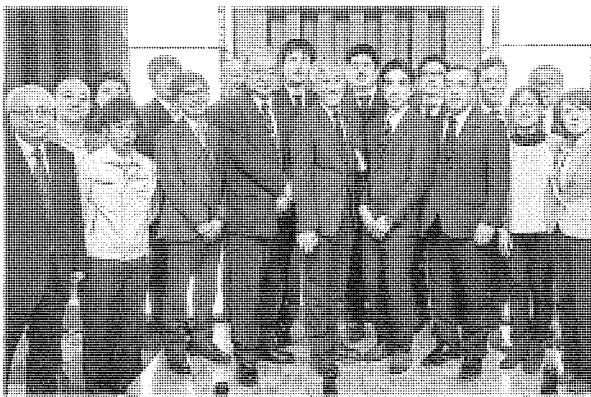


NJ 素流協 News

令和2年2月10日
第181号

令和2年2月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



本郷浩二林野庁長官を囲んで

令和元年度 森林林業中央研修会と 全素協青年部会勉強会に参加しました

1月10日、東京都内で全国素材生産業協同組合連合会（全素協）と全国国有林造林生産業連絡協議会（全国造生協）主催の「令和元年度森林林業中央研修会」が開催され、また翌11日には、全素協青年部会の勉強会が開催されました。当組合からも参加しましたので、概要をお伝えします。

〔森林林業中央研修会〕

今回の研修会には、全国から傘下の事業体役員ら約350名が集まった。当組合からは組合員、賛助会員、事務局役員合わせて21名が出席、またこの他に岩手県国有林造林生産請負事業協議会等の傘下会員名義で参加した組合員も多数あった。

全素協川端省三専務理事の司会進行で開会し、はじめに林野庁織田 央国有林野部長が次のように挨拶した。

「国内の森林資源が充実し、林業の成長産業化が到来したと言われるが、循環型林業が本当に成り立っていくのか、瀬戸際に立たされている思いがしている。川上側には大きな二つの課題があり、ひとつは財産権の問題だ。これについて

経営管理を市町村に委託し、さらに地域の林業経営体に再委託する仕組みが始まった。森林環境譲与税は200億円からスタートしたが、今般税制改正もあって、令和6年には最大額の600億円に達する。これを受け、現場の方では税をしっかりと活用していかなければならないと思う。

二つ目は生産性の向上で、路網整備、高性能林業機械の導入のほか、自動化を目指した機械の開発、ICTによる生産管理、さらに造林ではエリートツリーを活用した下刈の軽減等を進めたい。労働力確保の問題、労働安全の観点からも、施業のあり方の見直しは必要だと考える。

については昨年4月施行された森林経営管理法と、森林環境譲与税の活用により、所有者に代わって森林

これらの実現に向け、本年4月から始まる樹木採取権制度では、国有林において林業経営体に一定の区画・期間の樹木採取権を取得してもらい、経営体の安定的な事業を支援していく。また都道府県と連携した市町村の支援、大学・研究機関と連携した技術の開発と

普及にも努めていきたい。」

◇ ◇ ◇
続いて、林野庁幹部から施策等の詳しい説明が行われた。

「林業・木材産業の成長産業化に向けて」林野庁 眞城英一 木材産業課長（代理・服部総括課長補佐）

はじめに、林野庁が全国で実施した原木運送に係るアンケート調査（本紙第176号既報）の結果が紹介され、林野庁では原木輸送に補助事業を拡充し、後押しを図ると説明した。現在推進中の「効率的サプライチェーンの構築事業」では、全国でSCM（サプライチェーンマネジメント）推進フォーラムを設置し、ICT活用のもと川上・川中・川下の情報を共有し、効率

的で安定的な木材供給の実現を目指すとした。今年度補正予算と来年度予算に関しては、人材育成支援に係る予算の拡充の状況について説明した。

◇ ◇ ◇
「国有林野事業の展開方向」

林野庁 宇野聡夫 業務課長

◇ ◇ ◇
令和2年度国有林関連予算概算決定の概要を説明した。非公共事業の林業成長産業化総合対策の一つとして盛り込まれた「林業イノベーション推進総合対策」では、レーザ計測やICT機器による情報

のデジタル化、機械化・自動化による作業の軽労化、改質リグニ

ン等を使用した木質新素材の開発等を行うとした。また国有林における樹木採取権の設定をめぐる法改正の内容を説明した。

◇ ◇ ◇
続いて、研究者・専門家の講演が行われた。

「チェーンソー作業の安全と技能教育」東京大学大学院農学生命科学研究科 特定研究員 飛田京子氏

林業専門誌『月刊機械化林業』記事から、チェーンソーを取り巻く歴史を概観し、伐木作業の安全と技能教育の重要性に着目した。現状の課題として技能教育・研修の目的が曖昧であること、機械に関する知識が不足していること、

技能の客観的評価基準がないこと、

テストがないことを指摘し、作業員自ら考えて正しく「認知・判断・操作」を行えるようになることを目的とした、新しい教育の理論と方法を提案した。

◇ ◇ ◇
「早生樹植林の将来」森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 遺伝資源部長 生方正俊氏

早生樹として期待されているコウヨウザン（ヒノキ科コウヨウザン属）は中国・台湾原産で、日本では江戸時代以前から寺社を中心に導入されていた。関東から九州にかけてまとまった林分が20箇所あり、それらの調査と試験から、生育適地はシイ・カシが生育する

照葉樹林帯、生育適地では20〜50年生でスギの約2倍の材積成長が見られること、壮齢林ではヒノキ

並み、若齢林ではスギ並みの材強度があること、萌芽力が旺盛という特性があることが分かった。一方、野兎害の防除、花粉症の恐れ

がないか、幹折れや自殖苗等の課題もある。今後も優良種苗木生産技術の開発等の研究を進め、コウヨウザンが植林樹種の一つの選択肢となることを目指す。

◇ ◇ ◇
「バイオエコノミーと林業機械化」東京大学 名誉教授 酒井秀夫氏

現在世界経済は「バイオエコノミー（生物の経済）」に向かっている。一部の国では脱火力発電を宣言し、世界のバイオマス・トレイドが活発化している。欧米の林業イノベーションは、機械開発のモジュール化・省エネ化、ICTによるデータの共有など、さらに高い生産性を目指している。日本でも伐採と地拵えの一貫作業による低コスト化が普及しつつあるが、

新世代架線技術による全木集材や機動力の高いダンプカー集材などで、より高い収益を上げることが可能になるだろう。

◇ ◇ ◇
研修会終了後は、林野庁幹部、講師を交えて懇親会が催された。

席上で本郷浩二林野庁長官は、「林業でも働き方改革ということ

で、皆さんの職場でもご苦労があるうかと思う。新しい担い手に来てもらうためには、それなりのものを支払わなくてはならない。また安全第一ということでは、酒井先生のお話にもあったが、ニュージーンドではまさに究極の、チェーンソーをほとんど使わない、林内に人を入らせない林業をやっているという。我々も今変わろうとしている時代だ。全国の皆さんの現場の安全を祈念したい」と述べた。

◇ ◇ ◇
【全素協青年部会勉強会】

翌11日は全素協青年部会と全国造生協青年層の共催による勉強会が開催され、約70名が出席した。当組合青年部会からは10名が出席した。

はじめに、全素協日高勝三郎会長が、「森林環境譲与税がいよいよ活用されることになるが、国民から国土保全もできない野蛮人と言われないようにしっかりやらなければならぬ。ただ真面目にやるだけでなく、異業種参入等もある

の中で各地域において上手にやっていけるよう、色々と勉強して何かの糧にしていたきたい」と挨拶したのちに続いて、2つのテーマで講話が行われた。

講話①「林業が変わる！〜ニュージーンドにおける先進架線集材〜」

講師・木構造振興株式会社代表取締役 山田壽夫氏

素材生産システムのうち、伐倒作業の無人化に関して、ニュージーンドではケーブルアシストでフェラーバンチャを吊り下げて伐倒を行っているという情報があり調査してきた。

現地で伐採しているラジアーターパインは成長量が20m³/ha年、30年で600m³/ha余りとなり、伐期は25〜30年。山の傾斜は日本とあまり変わらない。尾根に道が入っているのがミソ。木材価格は日本より若干安い。素材生産費は日本のおよそ半分である。

数社の視察を行ったが、伐倒はテザーシステム（ハーベスタをエクスカーベータ等でつないで斜面を

下りウィンチアシストで伐倒するシステム）で行っている。土壌条件にもよるが、傾斜40〜50度でもハーベスタが下って伐倒できる。集材はタワーヤーダやスイングヤーダ（会社によりケーブルグラフ（ブルドーザー）を使い、先柱として中古のブルドーザーを使っているところもある。機械にはGPSやカメラによるアシスト機能も付いており自動化が図られている。

丸太の輸送システムについても、丸太の位置・質・量や運材経路がデータ化される。NZではインターネットがつながらない伐採現場も多いが、トラックに積んだタブレットに、GPS情報と丸太の質・量などが入力されており、インターネットがつながるチェックポイントを通過すると、データが自動的に入ってくる仕組みを導入している会社もある。インターネットが届かないところでも、無線により必要なデータの交換を随時行っている。

講話②「軽労化を図るマッスルスーツについて」

講師・株式会社イノフィス 営業部 清水大真氏

介護サポート用に多く導入されているロボットスーツであるが、これまで価格は50〜百万円と高価であったが、個人でも購入できる10万円代の価格を実現している。マッスルスーツエブリイは、圧縮空気を駆動源として用いるため、電気を使わず、防水・防塵のため、多様なシーンで使うことができる。空気を注入した人工筋肉のはたらかにより、重いものを持ち上げる、中腰姿勢を維持するなどの作業をサポートする装置である。



青年部会勉強会でマッスルスーツの装着体験

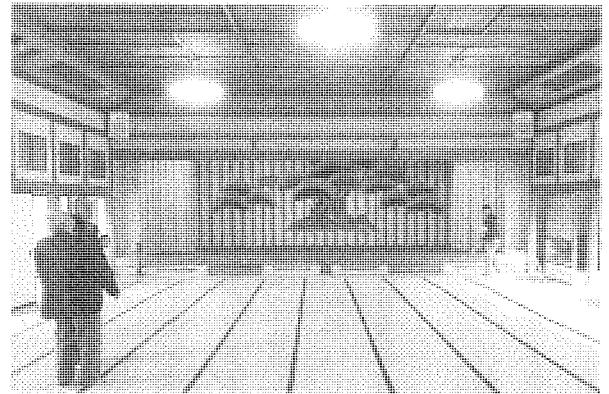
トピックス

秋田県能代市において 林業経営講座(第3回) を実施

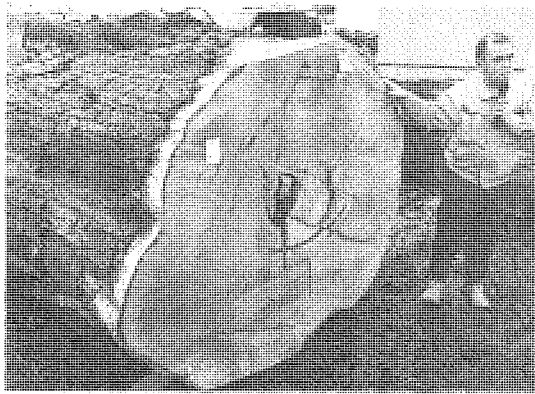
1月23、24日の2日間、秋田県能代市において、令和元年度NJ素流協林業経営講座(第3回)を実施し、当組合員12社・団体から15名、事務局から6名が出席した。今回のテーマは天然秋田杉およびスギ高齡樹で、能代市内に残る銘建築物、高齡級スギを専門に扱う製材工場、銘木市場を訪れた。

旧料亭「金勇」(国登録有形文化財)

昭和12年に建設。天然秋田杉をふんだんに使った数寄屋造りで、大小11の部屋があり、それぞれ内装に特徴を持たせている。見どころの一つは2階大広間で、広さが110畳あり、天井は樹齡260年以上、直径2m級の天然秋田杉の根元から製材した柰目板を卍型に配した「四疊半仕切り格天井」となっている。



旧料亭「金勇」大広間の天井は天然秋田杉



瀬川銘木にて 巨大な高齡級スギ丸太と瀬川社長

瀬川銘木(瀬川貴志代表取締役)

高齡級スギの製材を専門とし、天然スギを求めて日本各地で原木

を買い付けている。カウンター材や注文材のほか、高齡級の伐根から格天井の天井板を製材することもある。製品は天然乾燥。

(有)佐藤銘木(佐藤一之代表取締役)

樹齡85年以上の高齡級スギの製材を専門とし、高級建材を作っている。秋田県以外の材や伐根も製材する。製品は天然乾燥。

(有)渡部製材所(渡部好則代表取締役)

高齡級の伐根を製材し、格天井の天井材や腰板を作っている。材は余すことなく使い、黒芯は色を抜いている。

昭和木材(館岡明彦代表取締役)

樹齡80年以上のスギ製材品の量産工場で、カウンター材、鴨居、建具材などを作っている。原木は秋田県をはじめ日本各地から買い付けている。製品は天然乾燥。

協同組合秋田県銘木センター

第498回原木市

天然秋田杉、秋田・岩手・宮城産スギ、伐根等合わせて93点を出品。値決めはセリで行われ、天然

秋田杉では落札額が15万円/m³となるものもあった。当組合が出品した高齡級材は、高いもので3万円代で競り落とされた。同会場では製品のセリも行われた。

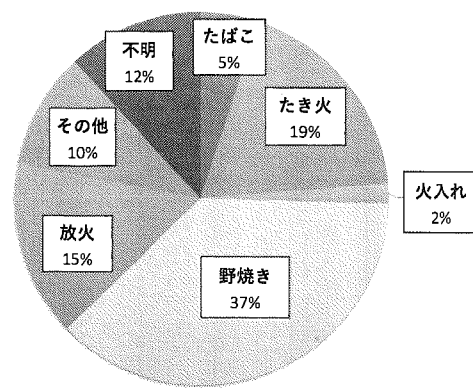
ご案内をいただいた各社・団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

山火事防止を徹底しよう! 出火原因「野焼き」がダントツ

令和2年岩手県山火事防止対策推進協議会が1月29日、盛岡市で開催され、本年の山火事防止対策実施計画等について協議した。当組合からは高橋常務理事が出席した。

同協議会の報告によれば、令和元年の岩手県内の林野火災発生状況は、発生件数59件(前年33件)、焼損面積9・19ha(前年57・24ha)と、前年と比べると焼損面積は小さいものの件数が増加している。これらを発生原因別、月別に見ると、原因の上位は野焼き22件、37%(前年13件、40%)とたき火11件、19%(前年5件、15%)で、発生

月は3～5月の3か月間で42件と全体の7割余りを占めている。なお放火9件、15%も看過できない数字である。



令和元年1～12月の林野火災発生原因

組合員におかれては山林の防火活動に率先して取り組み、地域の山火事防止に努めるようお願いいたします。

とうほく再生可能エネルギーシンポジウムが開催されました

1月24日仙台市において、経済産業省東北経済産業局主催の「とうほく再生可能エネルギーシンポジウム」が開催された。分科会で

は(株)大仙バイオマスエナジー(秋田県)の金井義博代表取締役が「産地消バイオマス発電」持続可能な発電所構築に向けて」と題して講演し、東北地方で稼働している同社グループの各木質バイオマス発電所が行っている地域貢献の取り組み等を紹介した。

お知らせ

当組合員(有)丸大東北農林がユーチューブ動画で会社案内を配信

(有)丸大東北農林(岩手県洋野町、大粒来仁孝代表取締役)は、このほど動画サイト「ユーチューブ YouTube」で同社の紹介動画を公開しました。格好いい音楽にのせて映し出されるドローン空撮画像には、

林業現場の躍動感があふれます。動画の見どころは社員の皆さんのインタビューです。林業に就職したきっかけや会社の様子を生の声で語ります。どうぞユーチューブで会社名を検索してご覧ください!

「再造林促進奨励事業」の助成対象となる再造林地を募集しています

当組合では再造林を促進するため、「再造林促進奨励事業」として、組合員が実施した再造林に対して助成を行っています。

条件は、①組合員が伐採した人工林跡地(前年度伐採も可)、②重機等使用の地拵え、③低密度植栽です。ただし、当組合が再造林基金事業に協力している岩手県内の再造林は対象外となります。岩手県以外で今年度、再造林を実施した組合員は、経営企画課(野田)にご連絡ください。

「技術向上自己研鑽研修助成金」の申請について

当組合員の役員・従業員が技術や知識向上のため、外部研修会等に参加した場合や、独自に研修会等を開催した場合、その経費の半額(上限5万円)を助成します。申請期限は2月末日となっております。

「困りごとご相談ください！」

組合員の皆様が日頃の事業等を進めるうえで疑問に思っていることや分からないことなど、どんな些細なことで構わないので遠慮なくご相談ください。

今年度は、再造林補助金の仕組みや申請方法が分かり難いという声にお応えして、岩手県森林整備課の担当者をお招きして説明会を開催いたしました。

また、造林補助金や原木運送トラックへの助成事業に関するお問い合わせには、県庁の担当部局に確認するなど可能な限り組合員の皆様の要望にお応えできるように取組を進めて参りました。困りごとがございましたら、何なりとご相談をお寄せください。

ります。詳細については経営企画課(吉田)にお問合せください。

ちよつと気になる木の話

43

素材生産の生産性を考える

― 伐区の生産性が通年生産性か ―

素材生産の生産性を考えてみよう。

まずは、労働生産性についてである。

素材生産の作業工程は、道付け・伐倒・

搬出・玉切り・樺積み・仕分け・運

搬がある。もちろん高性能林業機械の

導入により生産性はアップしている

し、伐倒・搬出・玉切り・樺積みを1

台でできる機械もあり、1人1日50㎡

は出せる状況となっている。しかし、

これを1月単位、1年単位でみると別

の観点からの生産性があることがわ

かる。それは、通年・月給制の雇用形

態が増加している現在の状況で、主作

業の可能な日が何割まで確保できる

か、という観点である。かつての、伐採

班セット崩れとか悪天候下での副作

業日があつた時代と重なって見えて

くる。

セット崩れの場合は、どんな作業で

もできるマルチ作業従業員がいれば

問題はない。いない場合は、伐倒済量

や全木・全幹集材後の素材の量、樺積

みを一定量確保してあれば主作業

は可能となる。市場を介さず直送で大

量納入できる場合が増え「今朝カラ

スの止まっていた立木が、夕方に市場

に入っているのが理想」と言われた

時代とは全く状況が異なる。

一方、悪天候が続く時の作業である

が、危険な作業はできないので、悪天

候でも可能な代替の主作業を用意す

る必要がある。例えば林道脇の土場で

の玉切り作業や仕分け作業であるが、

土場が林道から遠い場合には、悪天候

だけにそもそも現場に行くことが困

難、という問題が生じる。しかし一定

量を中間土場までおろしていれば作

業ができる。もちろん、デスクワーク

ができればそれに越したことはない。

これまで見てきた中では、併設してい

る製材工場・チップ工場で勤務した

り、薪づくりをして主作業としている

例も結構あつた。ちなみに白ナンバー

の専任運転手がいる場合は、運転手の

仕事確保のために中間土場の設置が

必須である。

以上のようなことを実施すると、通

年主作業による労働生産性は確保で

きる。労働生産性の向上は、機械化に

加えて通年主作業確保を取り入れて、

初めて完成だと思えてならない。

次には、付加価値生産性との balan

スを考えなければならない。

採材・仕分けの工程においては、本

来用材としての価値があつても、面倒

(仕分けすると労働生産性も落ちる)

だからとチップ材として混ぜ込んで

しまつたり、曲がりのない一般製材用

材を全て2mに切断したり、広葉樹は

全てチップ材に仕分けしたりと様々

なことがある。しかし同じチップ材で

も、ヤマザクラだけ、ブナだけだと価

格が全然違う。この売り上げの差が付

加価値生産性である。もちろん、労働

生産性が落ちる分と付加価値生産性

の上がる分とのバランスが重要であ

る。でも従業員が労働生産性を落とさ

ず、付加価値生産性を上げれば問題は

全くない。能力を向上させて、スムー

ズな仕事で、最大利益である。その上

に、先に述べた通年主作業確保を組み

合わせれば、全くもつて良い話となる。

ここで新しい理想論を言えば、NJ

網バージョンができないか、である。

伐採区域の境界をキッチリ確認して、

路網専門業者が全体路網を全区画に

わたつて整備する。そこまで委託経

費を支払い、路網専門業者の仕事は完

結する。路網が整つているため素材生

産業者は即主作業へ入ることができ

る。主作業現場が常に連続して存在す

る仕組みである。この路網専門業者は

かなりの技術が必要となるが、出材効

率や林地保全等に多大なる貢献がで

きそうである。夢に終わるかも知れな

いが、現実になるかも知れない。逆に、

ハーベスタが入らない現場で水が上

がらない時期なら、路網作業者が全

木伐倒し、素材生産業者に引き渡すケ

ースもあるかも知れない。

主伐再造林時代である。再造林の労

働力も当然林業の柱となる。増加する

伐採跡地への再造林は、既存の造林業

者だけでは量的に無理なのは明白で

あり、この一翼を担わなければならない

素材生産業者の労働生産性の向上

がどうしても必要である。

丸太不足で半日しか稼働できない

チップ工場の生産性を想像して、意を

令和元年1月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	13,479	100.6	131.1	10,164	83.8	146.6	23,643	92.6	137.3
カラマツ	2,570	71.3	64.2	63	34.2	34.4	2,633	69.5	62.9
アカマツ	3,614	147.4	147.3	1,434	130.5	82.0	5,048	142.2	120.1
その他	0	*	*	528	157.3	1,311.7	528	157.3	1,311.7
合計	19,663	101.0	117.5	12,188	88.7	136.8	31,852	95.9	124.2

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,602	115.6	135.2
カラマツ	2,633	91.9	157.9
アカマツ	2,749	195.0	96.5
その他	0	*	*
合計	10,984	120.5	126.8

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃料用 (t)
スギ	109,318	151,761	261,080	56,311
カラマツ	40,498	2,293	42,791	33,690
アカマツ	29,075	9,734	38,809	17,219
その他	21	6,470	6,491	1,214
合計	178,912	170,259	349,170	108,434
目標達成率 (%)	79.5	103.2	89.5	83.4
計画量	225,000	165,000	390,000	130,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和元年1月の需給動向】

- 合板用スギ原木は出材も順調となり、若干供給過剰状況となっている。2月も同じ状況が続く。
- カラマツの出材が減少し、アカマツの出材は増加傾向となったが依然どちらの樹種も引き合いは強い。
- 今年は積雪が少なく、出材は順調。最後に出材される低質材も雪に眠ることなく順調に搬出。

耳からウロコ

不正入札ではない面白い入札話
— 記憶に残る3事例 —

最近、某県の共販所での不正入札が話題となっているが、不正ではなく、面白くて記憶に残る3つの入札事例を紹介したい。

1 番目は、愛知の銘木市でのこと。遠く青森からヒバの大径優良丸太が運ばれ、セリ入札が始まった。最初に10万円の声でセリ子から出され、パツ

パツと5人くらいが手を挙げた次の瞬間、買い手の一人から「100万円！」の大声が。セリ子もびっくりしたが、手を挙げたメンバーも声のする方を見た。とある有名な人だったが、即落札となった。これでは競り上がりの楽しみはないが、この値開きには仰天した。2 番目は、岐阜の銘木市での入札である。入札の前に業界の人が丸太の品定めに回るが、とある丸太の前で、人を集めて誰かが大声で怒鳴っている。「国有林のバカツ。こんな曲がったホオノキ出してきて、バカじゃないか。売れるわけがないのに。」である。「しょうがないよね。前の日に急遽出品され

たんだから。」と別の誰かが言った。そしてセリ入札が始まったが、どんな価格が競り上がって20万円も超え、手を挙げて競っている人を見たら、あの怒鳴っていた人である。落札して言うことには「刀のさやの曲がりにはピツタリで、この曲がりはめったに出てこない。」と。あの怒号は単にライバルへの牽制だったのか？でもライバルには、目がキラキラした無言の人がいたのである。

3 番目は、北海道での広葉樹立木の入札である。広葉樹全盛時代でもあり、会場には入札希望者が50人以上溢れていた。その廊下に入札金額と入札者名が書かれた入札札が沢山落ちており、拾った同業者の人が「札を落としてますよ」と届けると、落とし主は「しまった。入札額がバレってしまった。」とその紙を頭上に掲げてから入札箱へ投入した。その後、10人くらいが入札し「締め切りますよ」の声に、先ほどの人がニコニコしながらもう一回札を書き換えて投入。会場から笑いが！結果はその人が落札した。一人で2枚の札入れも可のルールである。

以上、全て不正入札ではないので念のため。